

# 丸型圧着端子を”ねじ締めなし”で接続出来る新型端子台

丸型着端子を差込んで接続、レバー操作だけで配線および離線作業を行うことが可能。ねじを使用しないため制御盤製作時に必要なトルク管理および増締め作業が不要。さらに現在保有されている丸型圧着端子の工具をそのまま活用することができます。

## 特長

◇ 接続にねじを使用しないためトルク管理および接続用工具が不要

挿入口に丸型圧着端子をそのまま差込んで配線  
ねじを使用していないためトルク管理が不要  
さらにレバー操作で接続できるため、工具レスで配線および離線が可能

◇ 1端子に2本接続可能

ねじ端子台と同じアプリケーションで使用可能

◇ 保護カバー不要

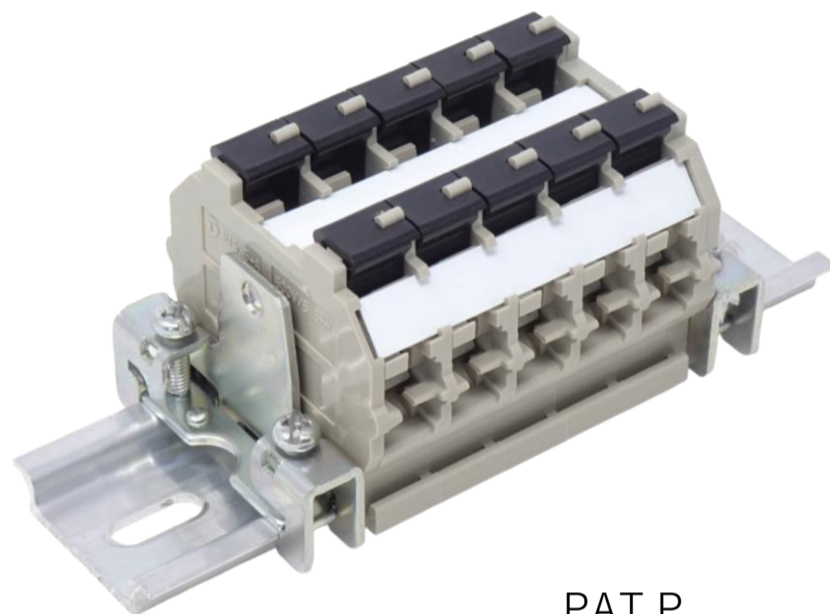
輸送中や作業中のカバー脱落による紛失ゼロ

◇ 丸型圧着端子をしっかりホールド

圧着端子の丸穴に固定棒を挿入する構造を採用  
電線の抜けがなく安心

◇ ツインターミナル方式を採用

上下2枚のターミナルで圧着端子を  
ホールドしているため接触安定性が向上



PAT.P

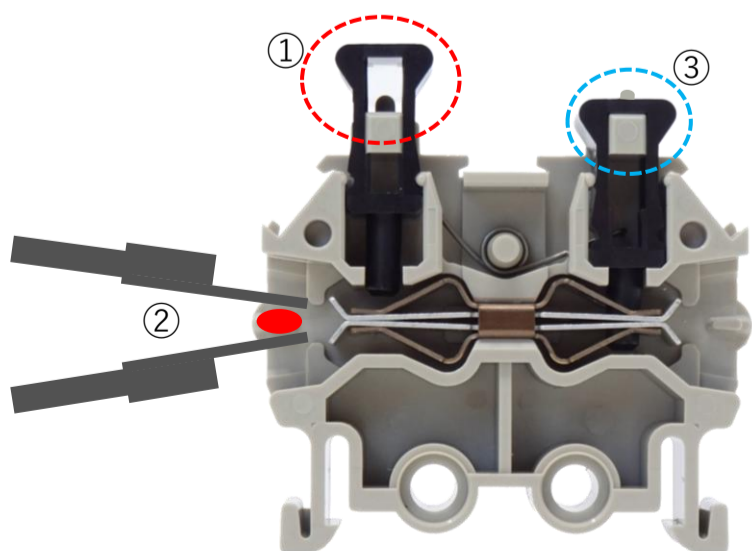
## 採用メリット

トルク管理  
増締め作業  
ゼロ化

ねじ緩み起因  
焼損事故防止

丸型圧着端子の  
工具使用可能

## ご使用方法

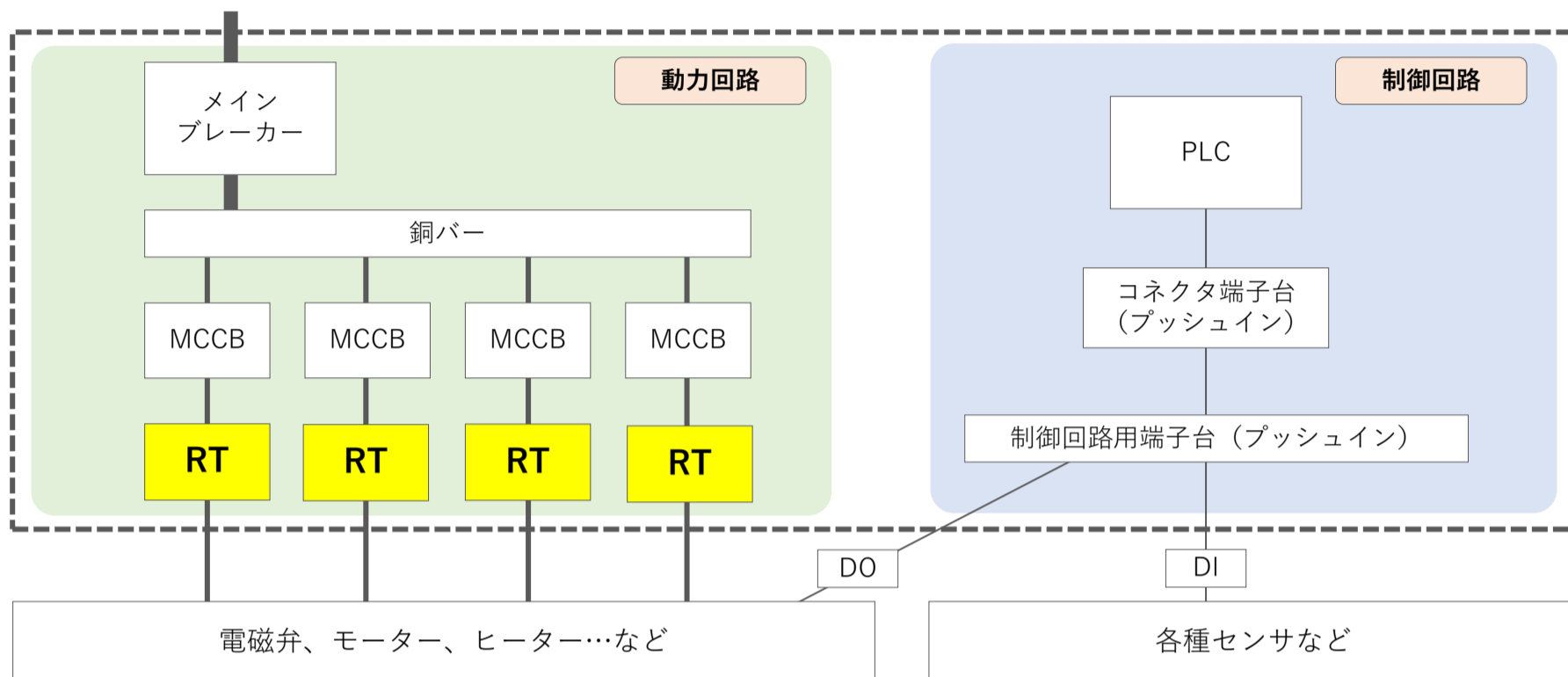


- ① 黒レバーのつまみを上方向に引き上げます。(赤色点線部分)  
上まで引き上げるとカチッとした感触がありレバーが固定されます。
- ② 丸型圧着端子を赤色部分の仕切に沿うように差込みます。  
2本接続する場合は、仕切の上側および下側に  
それぞれ1本ずつ差込むことができます。  
(圧着端子の向きを間違えると差込むことができません。)
- ③ 電線を差込んだあとにレバーを押し込みます。  
完全に押し込むと青色点線部のように突起が出ます。  
レバーの押し込みにより圧着端子の丸穴に固定棒が挿入されます。
- ④ 電線を引っ張り確実に配線されていることを確認します。

## アプリケーション例

### 制御盤内の動力回路用端子台（黄色部分）

- ・制御回路側は0.5～1.25sq程度の電線でプッシュイン端子台を用いて配線
- ・動力回路は2sq以上の電線でねじ端子台を用いて配線
- ☞ このような場合に下図の黄色部分にRT端子台を使用することにより増締め作業を行う必要がなくなります。



## 試験データ抜粋（参考資料）

### ◇ 絶縁抵抗耐圧試験

- ・絶縁抵抗試験…測定箇所の絶縁抵抗をDC500Vメガで測定  
規格値：100MΩ以上  
結果：充電部-モールド間：1000MΩ以上  
**判定：良**
- ・商用周波数耐圧試験…測定箇所に試験電圧を1分間印加 絶縁破壊有無を確認 その後絶縁抵抗試験を実施  
規格値：AC2000V（60Hz）1分間 絶縁抵抗/20MΩ以上  
結果：充電部-モールド間 AC2000V 1分間異常なし 絶縁抵抗試験/1000MΩ以上  
**判定：良**

### ◇ 温度上昇試験

回路に電流を流した時の温度上昇値を測定  
規格値：試験電流/40A 電線長さ/1m 電線サイズ/5.5sq 圧着端子/R5.5-4 温度上昇45K以下  
結果：測定箇所/導電金具 5.5sq 接続：28.0K  
**判定：良**

### ◇ 振動試験

供試品を振動試験機に使用状態で取付け。  
電線を接続し10～55Hzの振動を複振幅1.5mm、掃引速度1往復1分間の直線掃引で3軸方向に各2時間計6時間の試験を実施 試験後に絶縁抵抗試験、耐電圧試験および異常有無を確認

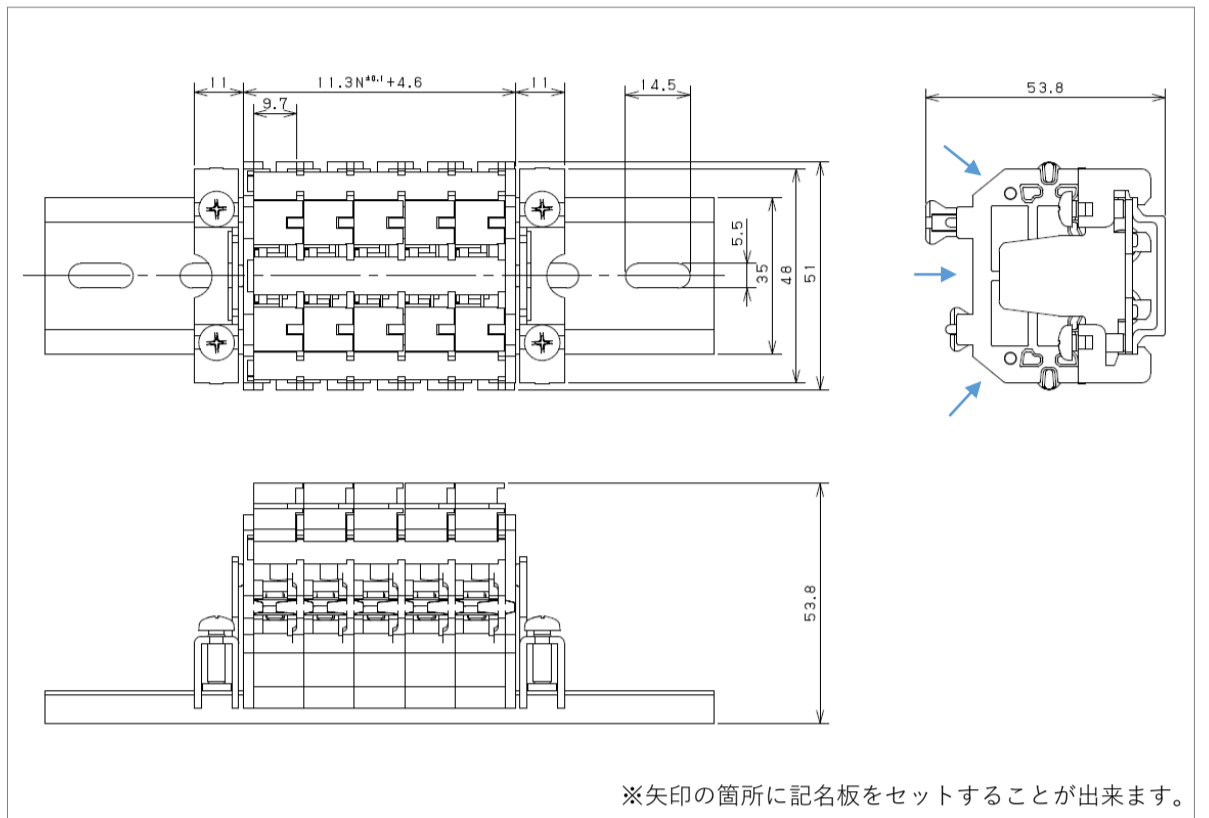
規格値：絶縁抵抗/100MΩ以上、AC2000V（60Hz）1分間、電線サイズ5.5sq、  
1μsを超える接触中断なきこと、各部に有害な故障がないこと  
結果：充電部-モールド間 耐電圧試験/AC2000V 1分間異常なし 絶縁抵抗試験/1000MΩ以上  
各部に有害な故障は認められず、1μsを超える瞬断の発生なし  
**判定：良**

一般仕様

定格電圧	600V
定格電流	40A
適合圧着端子 (※)	R5.5-4(絶縁被覆付き)相当品 (外形寸法同一品)
適合電線	MAX.5.5mm <sup>2</sup> (1.25mm <sup>2</sup> ~5.5mm <sup>2</sup> )
耐電圧	AC2500V/1分間 (異極間/充電部一括-接地金属間)
絶縁抵抗	DC500Vメガにて1000MΩ以上 (異極間/充電部一括-接地金属間)
使用周囲温湿度	-20°C~+55°C
保存周囲温湿度	-25°C~+70°C

(※) 推奨圧着端子は4ページの情報をご参照ください。

外形図



※矢印の箇所に記名板をセットすることができます。

ご注文方法

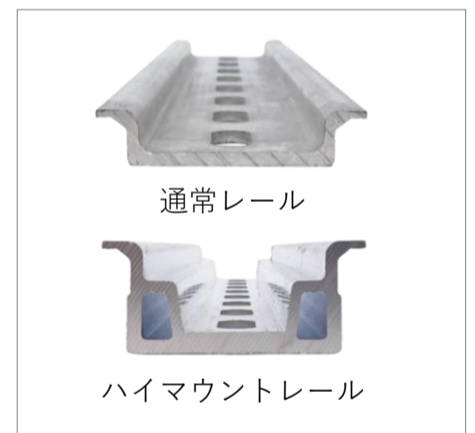
◇ DINレール式組端子台の場合

- RT5.5-□CU / 通常レール
- RT5.5-□CU-E3 / 通常レール・記名板3枚セット
- RT5.5-□CH / ハイマウントレール
- RT5.5-□CH-E3 / ハイマウントレール・記名板3枚セット

※ □に必要極数の数字を入れてください。

※ 標準仕様の記名板は中央に1枚セットされています。

両サイドにもご希望の場合は型式末尾「-E3」をご選択ください。(3枚セット)



◇ パーツごとの場合

部品名	型式	仕様	ロット
端子本体	RT5.5	—	100
終末板	RT5.5-A	AとBはセットで使用	50
	RT5.5-B	AとBはセットで使用	50
記名板	KT-e 1.0m	1.0m	50
	KT-e 25m	25m ロール巻	2
固定金具 (※1)	UK- b	通常タイプ	100
	UK- b h2	ハイバリアタイプ	100
DINレール	UK-c	通常タイプ	10
	EK-ch	ハイマウント強化型	10
レールキャップ (※2)	UK-ec	UK-C用	100
	EK-ch	EK-ch用	100



※1 組端子台にはハイバリアタイプが付きます。

※2 組端子台には付属しません。必要な場合は別途ご依頼ください。

圧着端子の仕様（推奨）

丸型圧着端子 仕様	JST			ニチフ		
	型式	適用電線範囲		型式	適用電線範囲	
		撚線	AGV		撚線	AGV
丸型端子/絶縁被覆付ストレート	V2-5	1.04~2.63sq	AWG16~14	TGV2-5	1.04~2.63sq	AWG16~14
	V5.5-4	2.63~6.64sq	AWG12~10	TGV5.5-4	2.63~6.64sq	AWG12~10
丸型端子/絶縁被覆付F型	FV2-5	1.04~2.63sq	AWG16~14	TMEX2-5	1.04~2.63sq	AWG16~14
	FV5.5-4	2.63~6.64sq	AWG12~10	TMEX5.5-4	2.63~6.64sq	AWG12~10

※詳しい仕様は圧着端子メーカーのホームページをご参照ください。（上記の情報は2026年2月現在のものです。）

上記以外の仕様については別途お問合せください。

追加ラインアップ予定

◇ RT2（MAX 2sq対応）、RT14（MAX 14sq対応）、RT22（MAX 22sq対応）

規格/特許など

◇ UL規格取得予定

◇ 特許出願済み

安全に関する  
ご注意



- 丸型圧着端子が挿入口の奥まで差込まれていることを確認の上レバーを下げてください。
- 電線が抜ける恐れがありますので、レバーが下がっていない状態で使用しないでください。
- 配線したあとは電線を引っ張っても抜けないことを確認してください。
- 丸型圧着端子は決められたサイズのものを使用してください。
- 1端子に2本接続する場合は圧着端子の向きに注意してください。
- 当製品は丸型圧着端子のみ接続可能です。Y型圧着端子など他の形状のものはご使用いただけません。
- 破損する可能性がありますので挿入口には丸型圧着端子以外のものを差込まないでください。
- レバー操作は工具などを用いず、必ず手で作業してください。  
引き上げる際はカチッという感触がした時点まで力を加え、それ以上無理に引上げないでください。
- レール上に端子を並べて組み立てる際は、端子同士に隙間がないようしっかりと嵌合させてください。
- 感電事故防止のため丸型圧着端子に絶縁キャップを取付けてご使用ください。
- 表示された定格範囲内でご使用ください。
- 当社製品は人命にかかわるような状況下で使用される機器に用いられることを目的として設計・製造されたものではありません。
- 本製品を使用したシステムを設計される際はシステム側でフェイルセーフとなるように、万一の故障に対して適切な処置を講じた上でご使用ください。
- 特殊用途をご検討の際にはお問い合わせください。
- 故障による重大事故が予測される設備にご使用される場合は安全装置を設置してください。
- 有機溶剤、油脂類などが付着しない状態でご使用ください。
- 高温、多湿、塵埃、腐食性ガス、振動衝撃など異常環境下でのご使用はお避けください。